

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	文字を読んだり書いたりすることはおおむねできるが、文章を書くことに苦手意識をもったり、書かれている内容が正しく理解できなかつたりする児童が若干名いる。くっつき「は」「を」「へ」、拗音・撥音・長音については繰り返し学習する必要がある。	内容の理解においては、「誰が」「いつ」「どうした」など、どこに何が書いてあるのか項目を一つ一つ確認しながら読み取る力を育てていく。「書く」ことについては、短作文の宿題を設定するなどして、日々積み重ねることで文章を力をつけられるようにする。	問いに対する答えがどこに書いてあるのかを確かめるために、発展的な読み取りの問題に取り組ませる。学習の中で登場人物の気持ちを読み取り、文章で表す時間を作る。朝読書やGUタイムで、読書する時間を設け、文章に触れさせる機会を増やす。
2年	前学年までの漢字の読み書きや言葉の順序理解は、おおむね力が付いている。しかし、初見の文章の内容を読み取る力や、問題を理解し、文章に表す力に課題が見られる。意欲をもって問題に取り組めなかつたり、難しいと感じる問題を諦めてしまつたりすることが課題である。	絵本の読み聞かせをしたり、めあてをもたせ読書活動に取り組ませたりすることで、初見の文章への抵抗感を減らす。また、学習中に自分の思いや考えを文章にして表す活動を増やし、力を付ける。達成感を味わわせることで、最後まで取り組もうとする意欲を高める。	GUタイムでの漢字小テストに加え、視写や聴写の活動を取り入れる。週末に継続して日記の宿題を出すことで、出来事や自分の思いを文章化する経験を増やし、最後まで書けたという達成感を味わわせるとともに、文章を書くことへの抵抗感を減らしていく。
3年	既習の漢字の読みはおおむね力が付いているが、音訓の区別や正しく書くことは難しい児童もいる。また、てにをは・長音促音・句読点についても繰り返し学習する必要がある児童が多くなる。問題を理解し、文章に表す力に課題が見られる。意欲をもって問題に取り組めなかつたり、難しいと感じる問題を諦めてしまつたりすることが課題である。	ノートやワークシートを書く際に、既習の漢字や表現を使用させ、定着を図る。学習中に自分の思いや考えを文章にして表す活動や学習の振り返りを増やし、力を付ける。書いた文章を友達と共有し、書ききる達成感を味わわせることで、最後まで取り組もうとする意欲を高める。	漢字小テストを行うことで間違いの見直しができるようにし、宿題で継続して漢字の定着を図る。NIEでは児童が興味関心をもつ文章に触れさせる機会を増やすことで文章を読むことへの抵抗感を減らしていく。
4年	説明分の内容を読み取り、選択肢の中から正しい答えを選ぶことはできる。しかし、指定された様式で自分の考えを記述することに課題がある児童が多い。加えて、学年全体で前年度まで漢字の読み取り・書き取りが十分にできない現状があり、文章構成力・漢字の習熟が大きな課題である。	日々の学習の中で自分の考えを書く機会を増やす。物語であれば、登場人物の行動の理由について具体的に記述させたり、説明文の学習であれば、文字数を指定して要約させたりして、書く力の向上に努める。漢字の学習については、GUタイムを活用した練習を繰り返し、習熟を図る。	総合的な学習の時間など他の学習と関連し、調べ学習を行い、本やインターネットを活用し、資料を読み取った内容をまとめる活動を設定する。読み取った内容をノート・ロイロノートなどを活用して、自分の考えを表現する力を付けられるようにする。
5年	学習については、ICTの活用や対話的な学習スタイルの中で積極的に取り組んでいる。全般的に自身の考えを記述し全体で話し合っていくことに課題が見られる。問題傾向から、説明的な文章における事例や資料等からの読み取ったことを整理することを意識的に取り組む必要がある。	説明的な文章での読み取りでは、罫線を引く活動や書き込み、要点や要旨を整理していくプロセスを大事にしていけるようにワークシートや学習過程を工夫し、書いたことや伝えたい自身の考えを出し合う学習に結び付けていけるようにする。	NIE活動や小学生新聞等を活用し、資料から読み取る場面を日常の中で意識的に設定していく。今年度も読書の習慣をさらに高めるように、学級文庫や平行読書を充実させ、文章を読む力を高めたり語彙を増やしたりしていく。
6年	漢字は、新出漢字だけでなく、6年生までの既習漢字も反復で読んだり書いたりを繰り返し復習する。言語事項についても、既習事項を話す・聞く・書く・読む領域についても繰り返し捉えられるようにする。	毎日繰り返し漢字の練習に取り組ませ、定期的に漢字テストを行う。新出漢字の練習では、漢字の成り立ち、書き順、熟語にも触れ、漢字の読み書きの力を伸ばしていく。話す・聞く・書く・読む領域については、毎単元、学習のゴールを設定し、いつも同じ流れで学習計画を立て、子ども達に課題意識をもたせて、授業に取り組ませる。	語彙力を伸ばすために、常時活動を工夫する。連想ゲーム、クロスワード、言い換えゲーム、ワードゲームの活動を行う。総合や社会など他教科とも横断的な学習を設定し、グラフや図を用いて、意見文を書く。他者意識をもたせ、クラスで伝え合う活動を定期的に行う。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立滝野川第四小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組むことに課題がある。また、学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見いだしたりする姿も少ない。資料から読みとつたことを基に考えることも難しい。	見学などの体験的活動を多く取り入れることで、児童が主体的に取り組めるようにする。見通しと振り返りの場を充実させる。例えば、振り返りでは「何がどこまで解決できたか」「何が解決しなかったか」「新たな課題はなにか」と問いかけ、児童自身が自己評価することで、新たな学習へと発展させていく。必要な資料や、資料の出す順を吟味し児童に提示する。	NIEでは児童に身近な文章に触れさせる機会を増やすことで、社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題について多角的に考え、興味関心がもてるようにする。総合的な学習の時間でも地域について取り上げ、より地域への愛着を育む。
4年	「東京都の特徴」「水はどこから」「ごみの処理と再利用」などの自分の生活に根差した内容に関しては、経験と結びつけて考えを膨らますことができる。一方で、資料の読み取りに関しては不慣れな部分が多く、写真や表、グラフなどを正確に読み取ることに課題が見られる。	写真から読み取れることを話し合う活動や、グラフから数値を読み取り、比較・検討する活動を多く取り入れ、データを基にして思考する力を身に付けさせる。また、自分の生活から想像が膨らませにくい内容に関しては、ICTを活用して資料や動画などを提示し、疑似体験を重ねて理解を促していく。	総合的な学習との関連を図り、学習したことを自分の興味関心に応じてさらに深く掘り下げて調べたり、まとめたりする学習を取り入れる。伝え合いや発表の場を設けて学び合うと共に、学んだことをICTを活用したクイズ形式などで発表し、興味関心の幅を広げられるようにする。
5年	資料を読み取る力をつけることが課題である。表やグラフから読み取れる事柄を正確に捉え、課題解決に活用する力が十分ではない。	ICTを活用して、資料の写真やグラフ、図などを示し、読み取る活動を増やす。グラフや表の読み方を押さえ、気付いたことや考えたことを伝え合う機会を増やし、理解できるよう工夫する。繰り返し取り組ませることで、資料を読み取る力を養う。	体験的な活動をできるだけ設定する。また学習のまとめる活動を工夫する。国語や算数、総合などと横断的な学習を行い、意見文や自分の考えを示すために、複数の資料を読み取り活用し、まとめて、友達と伝え合う活動を充実させていく。
6年	資料を読み取る力をつけることが課題である。表やグラフから読み取れる事柄を正確に捉え、課題解決に活用する力が十分ではない。	ICTを活用して、資料の写真やグラフ、図などを示し、読み取る活動を増やす。グラフや表の読み方を押さえ、気付いたことや考えたことを伝え合う機会を増やし、理解できるよう工夫する。繰り返し取り組ませることで、資料を読み取る力を養う。	終末活動を工夫する。国語や算数、総合などと横断的な学習を行い、意見文や自分の考えを示すために、複数の資料を読み取り活用し、まとめて、友達と伝え合う活動を充実させていく。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	簡単な数のたし算、引き算に興味をもち、積極的に問題に取り組む児童が多い反面、10の構成がまだしっかりとは覚えられていない児童もおり、数の概念の理解に差がある。また文章題では、「何を問われているか」が読み取れず正しく回答できない児童も目立った。	ブロックなどの半具体物を使い、数の増減や構成を視覚的に理解できるようにする。文章題については、大切なキーワードに下線を引き、どんな式になるか、どのように答えたらよいかを確認しながら進めていく。	早く課題を終えた児童には、北コンの学びポケットを活用し、多くの類似問題や発展問題に取り組みさせる。問題を作成したり、互いに問題を出し合ったりする場を設けていく。個別に支援が必要な児童においては、具体物や図を活用しながら、視覚を通して考えられる
2年	前学年で習得すべき基礎的な内容はこれからも継続して復習していく必要がある。特に、グラフの読み取りや、時計の読み方に課題が見られる。また、問題文が理解できなかったり、読み違えたりしてしまい、誤答や、未回答が目立った。	学習の導入で、前学年の復習を取り入れてから単元の学習に入り、前学年との学習のつながりや、既習事項を生かす学習にする。大切な言葉に印を付けることで、分かったことを全体で共有し、問題文を理解できるようにする。	GUタイムで、基礎的な計算を確実に解けるようにするために、計算問題を解く時間を設ける。日々の生活で時刻を問い、意識的に時計を読む機会を増やす。クロームブックのeライブラリーを活用し、多くの問題に触れさせることで基礎学力を高める。
3年	前年度までの既習事項が、観点に関わらず十分に定着していない。授業の様子を見ていると、ものさしを正しく活用できていない姿も見られる。前年度までの内容を理解できていなければ、今年度の新しい学習を定着させていくことは難しいため、まずは未定着の内容を再度指導する必要がある。	単元導入時に、関連している既習事項の確認を行う。習熟度別少人数展開を行っているため、クラスによっては毎時間九九を確かめたり、重要語句を押さえたりしていく。「B図形」と「C測定」領域においては、必要に応じて具体物・半具体物を用いたり、類似問題に繰り返し取り組ませたりすることで定着を図る。	習熟度別クラスによって、既習事項を振り返るための易しい問題に取り組ませたり、応用問題に取り組ませたり、児童が自分の定着状況に合った問題に取り組めるように指導する。発展クラスでは、自分の考えを図や式を用いて説明する活動も多く取り入れていく。
4年	学年相応の基礎的な計算力は身に付いているが、知識を関連付けて考えたり、応用したりする問題で躓きが見られる。また、グラフや文章題の読み取りや、記述問題において無回答や正答率の低さが目立った。粘り強く問題に取り組む力や思考力を高めていく必要がある。	数の概念を丁寧に取り扱い、分数や小数の理解に繋げていくことや、授業中に自分の考えを友達に説明したり、ノートに分かりやすく表現したりすることを通して思考力を育てていく。また、図や数直線などを用いて、自分の考えを根拠をもって示せるよう、日頃から練習を重ねていく。	支援が必要なクラスでは北コンの学びポケットを活用し、基礎的な計算力を身に付けさせていくと共に、習熟度に応じて、発展問題に取り組む、互いに問題を出し合う時間を設ける。また、自分の考えを根拠をもって相手に伝えられるよう、図や式、言葉を使った説明を工夫させる。
5年	基礎計算や用語の正しい理解に差がある。既習事項については、その都度丁寧に確かめ学習内容に取り組めるようにする必要がある。四則演算については、立式の意味や筆算の位の位置や数の意味について児童同士で伝え合えるような学習経験を積み重ねることが必要である。	習熟度別の学習において、基礎的な部分をフラッシュカードで繰り返したり、生活場面と結び付ける導入問題を設定して理解を高めしていく。習熟度別のコースについて、自己選択場面を増やし、学習する意識を高め、考え方を共有したり説明し合ったりする学習場面を多く設定し、考え方を深めていく。	習熟度の高いクラスでは、考えの言語化、図や言葉を使って説明、友達との比較検討、よりよい解き方の精選をさせ、多様な考え方があることを理解し、そこからよりよいものを導き出させていく。個別に支援が必要なクラスでは、教科書の基礎的なレベルの問題に慣れさせ、基礎的な学力を身に付けられるようにする。
6年	習熟度別指導により、2学級3展開で児童の理解度や、スピードに合わせた学習を進めている。基礎的な内容を理解するのに、個別での対応が必要な児童が少なくない。習熟したことを使って自力で解決する力を十分に付ける機会を多く設ける必要がある。発展クラスの児童は、図や絵、言葉を使って論理的に自分の考えをノートにまとめ、説明できるように、伝え合いの時間を多く設定し、思考力、表現力を高める。	習熟度に合わせた授業展開を行っていく。基礎的な内容を習熟させ、繰り返し問題を解かせたり、考えの説明、伝え合いの時間を多く設けたり、習熟したことを用いて発展的な問題に主体的に取り組ませたりするなど、児童の習熟に応じて授業展開を柔軟に変えていく。	習熟度の高いクラスでは、考えの言語化、図や言葉を使って説明、友達との比較検討、よりよい解き方の精選をさせ、多様な考え方があることを理解し、そこからよりよいものを導き出させていく。個別に支援が必要なクラスでは、教科書の基礎的なレベルの問題に慣れさせ、基礎的な学力を身に付けられるようにする。どのクラスでも、問題演習を重ねて行うことで、知識・技能の定着を目指し、友達との伝え合い、学び合いを通じて思考力、表現力を高めていく。

〔様式3〕

## 指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立滝野川第四小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	新しく始まった教科の学習に意欲をもって取り組むことができている。植物や昆虫の色・形・大きさに着目して観察し、風やゴムのはたらきの実験では、予想や実験方法を友達同士で話し合いながら考えた。一方で、結果と考察の書き分けはまだ難しい様子が見られるため、指導が必要である。	3年生で育成を目指す「主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力」を身に付けるため、常に「ちがうところ」や「同じところ」を見付けられるよう促す。また、観察・実験の結果を整理した上で、予想や観察・実験方法が適切であったかを考察し、結論を導き出せるよう指導する。	児童一人一人が納得し、理解を深められるよう、可能な限り実物を観察したり、実際に実験したりして、友達と協力しながら体験的に活動できるよう学習を進めていく。そして、今年度中に、気付き→問題→予想→計画→観察・実験→結果→考察→結論の基本的な理科の学習の流れを定着させる。
4年	全体的に前年度との大きな差が見られることから、主体的に問題解決の活動に取り組んでいける流れのある学習展開を意図的に組む必要がある。生命・地球領域よりもエネルギー・粒子領域に興味関心を持たせるべく、実験を組んでいく必要がある。	事象の問題に気づき、予想を立てて計画的に観察・実験を進め、観察・実験の結果から考えをまとめるというプロセスを原則的に流していく事が理科を主体的に学習していくスタンダードとなり、それが問題解決の手段となり、授業の改善に繋がるのではと考えられる。	主体的・対話的で深い学びを実現していくことが、今後の子どもたちの学習を伸ばしていくポイントである。各場面で子ども同士の横の交流を重視し、個人と事象の関わりを早い段階から意識させていくことが理科の学習に子どもたちを引き込んでいく事に繋がると考える。
5年	学習内容に合わせた問題解決型学習の流れを大切にす。実験の方法を考える際、「条件制御」に重点を置き、調べたいことを明確にしていく。既習内容において、理解が不十分である内容については、実験結果と結論との結び付けを丁寧に確かめて、語彙の定着を含め、説明する力を高めることが課題である。	体験的に学べるのが少ない分野でも、問題解決型学習の流れで指導を行い、実験や観察の視点をしっかり把握させてから取り組み、結果、考察を自分の言葉でまとめさせるようにする。学習内容の要点を明確にして整理することで、児童の思考が整理されるような授業展開を行っていく。	観察や実験を通してわかったことや疑問点をICTを活用して、まとめ、友達と共有し、身近な自然事象への関心を高めていく。動画、写真や絵、表やグラフ、小学生新聞等を活用し、意欲を高め、生活体験の中にある疑問を学習の課題として調べていけるようにしていく。
6年	「自然の中の水」や「月と星」など、日常の中で関わりの深い内容については、意欲や知識・技能の定着度が比較的高い。しかし、実験結果を知識に結びつけることが難しいことが分かる。	体験的に学べるのが少ない分野でも、問題解決型学習の流れで指導を行い、実験や観察の視点をしっかり把握させてから取り組み、結果、考察を自分の言葉でまとめさせるようにする。学習内容の要点を明確にすることで、児童の思考が整理されるような授業展開を行っていく。	観察や実験を通してわかったことや疑問点をICTを活用して、まとめ、友達と共有し、身近な自然事象への関心を高めていく。動画、写真や絵、表やグラフを活用し、意欲を高め、生活体験の中にある疑問を学習の課題として調べていけるようにしていく。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年	4年生までの積み重ねもあり、どの児童も楽しく学習に取り組むことができる。発話や聞き取りなどの活動には積極的に取り組むことができるが、課題に対して主体的に学習に取り組める児童が少ない。表現することへのハードルは高くないが、パフォーマンスに苦手意識があり、自信をもてない児童も多い。	ALTとの学習場面と、モジュールでの学習時間が有機的につながっていくように計画する。また、細かなステップで、児童のやりとりで自信がもてるようにしていく。ICT機器以外にも、児童が安心して活動できるよう学習材や提示物を改善していく。	身近な英語や他国の文化などに触れることができるように、新聞や情報を活用しながら興味関心を高めていく。外国語で身に付けたコミュニケーションの方法を、日常の授業の中でも活かせるようにする。
6年	どの児童も楽しく学習に取り組むことができる。活動や課題にも最後まで粘り強く取り組むことができるが、主体的に学習に取り組める児童が少ない。外国語に苦手意識があり、自分の考えに自信をもてない児童が多い。また、外国語の言葉や表現を書いたり、活用して文章を作って発表したりすることに、課題が多い。	導入のALTのやりとりの中で、1対1でやりとりする時間を設けたり、スモールトークで児童同士のやりとりの時間を増やし、上手に伝えられた言葉、言い方の分からなかった表現などを全体で共有し、いつでも安心してコミュニケーションの活動に取り組めるよう配慮する。	GUタイムの時間を使って、主に「書くこと」の学習の補充を行う。授業で使った言語材料だけでなく、基礎的な言葉や表現も繰り返し練習して習熟させていく。また、eライブラリーを活用し、基礎的な知識の習熟をさせていく。